

プツシゴ

MAR 17 1937

朝倉正順老 歸國の辭

▲コナ在任時代から奇人として知ら

れた朝倉正順老が

先便で突然歸朝し

たが歸朝の前日本社編輯局

へやつて来て『歸國の辭』

を示しこれを紙上に載せて

くれとの依頼があつた

▲見るとなかくの達筆だ

が内容は一寸不可解なところ

ろがあり其儘出す譯にも行

かず保留して置いた次第だ

が兎も角一風變つた文章な

ので本欄で御披露に及ぶこ

とゝする

▲朝倉老は古い慶應義塾の

卒業生でかつては東京の時

事新報記者をしたこともあ

るインテリだそりで布哇に

は珍しい經歷の持主である

▲左に掲ぐるはその老の筆

になる歸國の辭原文の儘：

○ナンダイクヂガナイ、マ

トソンはヨーロッパノスキ

スに生れて大西洋を渡り南

米最南端ケープフォーンを

廻つてサンフランシスコに

來り最初水夫となり後船長

になり仕舞にマトソン會社

を創立した又イツンボルグ

は獨逸で生れこれも同じく

カワイのリフエ・プランテ

ーションを完成せり

○仕度くができてマアケツ

トへ行く、子に逢はず妻に

も目つからぬやうフオード

から發しスクールを通り序

に濱畑君の細君に用はない

かを尋ねりリハを下り川サ

キに行く、川崎曰く船はキ

ツカリ午前十時に出るのに

今はもう五分で十時だから

切符は賣らない

○このペテロは信仰が足ら

ないので八つ目の鐵門をパ

ツスするを得ず、ペテロは

信仰によつて牢獄を出で八

ツノ鐵門が自然に開いた

○余は二十六日鷄鳴曉を

告ぐる頃インスピレーション

ンを得て日本旅行を遂行せ

んとす

太平洋の無錢渡航

一日サンフランシスコ發法
間丸で、ホノルルへは六日
寄港のはず

青木八藏氏の 葬儀昨日執行

去る十五日永眠したカカア
コ、ボウカイナ街青木八藏
氏の葬儀は昨十六日午後二
時半、自宅出棺、三時より
布哇浄土宗別院で告別式を
執行したが會葬者多數で盛
儀であつた、木村啓助氏の
司式で沖家室人會中田寅一
カカアコ、アラパイ共立日
本語學校走邊眞一、浄土宗
教團大谷松次郎三氏の弔辭
あり、中田由松氏の謝辭を

一強い藥劑を用ひる事なく

度目方なる今日、
辭退する決心で前豫てその
態度を明かにして固辭して
ゐたのである、それにも拘
らず自分を選舉せしめて斯
く紛糾せしめたことは準備
委員に幾分の責任あるもの
と同氏は見做してゐる、第
二に山本氏は前の慈善會問
題に關連し責任上から當時
會議所會頭を辭任する意志
を表示してゐたが、當時同
胞の社會行事多端であり、
かつ中途より會頭の辭任は

▲布哇鳳梨	四九、七五	五〇、〇〇
▲プネネ	六九、〇〇	七一、〇〇
▲エワ	五七、七五	六八、〇〇
▲ワイパフ	三元、八七五	四〇、〇〇
▲オーラー	一四、二五	一四、五〇
▲ワイアル	六、〇〇	六七、五〇
▲ケカハ	—	—
▲電鐵	—	一三、七五
▲合同娛樂	三五、七五	三〇、〇〇
▲紐育現物ゴム	—	二四、八一
▲日本前場出來高	—	二八、八株
▲オアフ・ポルツリメン	—	—
◆ 鶏印	鮮卸相場	—
大三十仙、	中二十八仙、	小廿五仙

森重書店後任

ベレタニア街森重書籍店主
神保源次郎氏は昨日龍田丸
で三ヶ月の豫定で歸國した
が不在中は木原隆吉、渡邊
國男の兩氏が店務を取扱と

購買局設置案

二度目の

四對一

P105.002 JA